

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> 相手や場面に応じて言葉を選んだり、適切に使い分けたりすることができる。 意味や性質、役割による語句のまとめがあることを理解し、該当学年の漢字を読んだり、前学年の漢字を書いたりして日常的に漢字を使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや気持ちを文章で書いたり、話したりすることができる。 読むことにおいて、目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。 話すこと、読むことにおいて、文章を読んで感じたことを共有し、一人一人の感じ方の違いに気付き、自分の考えを広げることができる。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 物語の読み聞かせや音読にはとても意欲的であるが、内容を理解するには語彙が十分でない児童がいる。ア 拗音を正しく書いていない児童が数名いる。ア 興味をもって、友達の話を聞くことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味の確認や、言葉遊びの機会を意図的に設けていく。ア 文字を書く機会を増やし、読み書きの定着を促す。ア 友達の考え方や感じ方を聞く機会を作り、友達の考えを聞くことのすばらしさを児童が実感できるよう価値付ける。イ 	単元の初め、 単元の合間ア 物語の初めの 感想やまとめ の感想の授業イ	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味を知る機会を設けたことで、文章の意味をより深く理解する児童が増えてきている。ア 拗音が正しくかけていない児童が数名いる。拗音は引き続き指導が必要。ア 質問やクイズなど友達の話を聞いて取り組む活動が有効であった。イ
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 学習した漢字を、正しく使えていない児童がいる。ア 伝えたいことを、明確にして文に表すことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習に日記を取り入れ、文や文章の中で正しく漢字が使えるようにする。ア 例文や話型を示すことで、文の書き方を学ぶことができるようになる。イ 	通年ア 通年イ	<ul style="list-style-type: none"> 日記の中で漢字に誤りがある際には指導したことでの正しく書ける児童が増えてきたが、個人差は大きい。ア 例文や話型を参考することで、工夫して文が書けるようになった。イ
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 学習した漢字を文章の中で使う等、日常的に漢字を使うことに課題がある。ア 簡単な組み立てを考えて文章を書くこと、自分の気持ちを表現することに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 前学年の漢字を使用して文を作るなど、漢字を使う活動を行う。ア 「はじめ」「中」「終わり」に分けて日常の出来事を作文するなど、簡単な組み立てを考えて書く活動を行う。イ 	年間6回ア 通年イ	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を使う学習を行うことで、使える漢字が少しずつ増えている。ア 「はじめ」「中」「終わり」に分けて文章を書くことはほとんどの児童ができるようになった。イ

第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字が定着していない児童とある程度書くことのできる児童との個人差がでている。ア 文章や言葉から伝えたい内容の読み取りや聞き取りをすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字は、必ず使うように指導をする。新出漢字については、繰り返し触れる機会を設ける。ア 他者の発言をしっかり聞いたり、メモを活用して伝えたりまとめたりする活動を行う。イ 問題把握のために、声に出して読む。イ 	<p>毎回の授業ア 通年イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字に興味をもつ児童が増え、文章でまとめる際、新出漢字を使用して書く児童が増えた。ア 伝えたいことを文章に書き表すことで、伝える内容を整理して話す児童が増えた。イ
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力が少なく、相手に伝わりやすい説明や言葉の使いまわしが難しい児童がいる。ア 自分の考えをもち、筋道を立てて表現をすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 発表や複数人の話し合いで、相手に合わせた、言葉の伝え方について継続的に指導する。ア 読書習慣を身に付けさせ、語彙力を高める。ア 話し合い活動や伝え合う活動の中で自分の発言や主張に、理由付けすることを適宜、指導をしていく。イ 	<p>毎回の授業ア 通年ア 毎回の授業イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した話し合い活動や発表活動により、質問したり考え方を広げる言葉を使ったりする児童が増えた。ア 自分の考えに理由を付けて説明したり、考えを表す言葉を使って伝えたりする児童が増えてきた。イ
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の使いまわしが上手な児童がいる反面、言葉を知らない児童もいて語彙力に個人差がある。ア 物語、説明文に対しての自分の考えを表現することを苦手とする児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 日記や作文の指導を通して適切な語の使用を個別に指導する。スピーチや発表を通して相手に伝わる表現について考えさせる。ア 日常生活における関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えを広げられるようになる。イ 	<p>通年ア 通年イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な日記や作文の指導、スピーチや発表をする中で言葉の使いまわしに興味をもつ児童が増えてきた。ア 自分の考えを表現する際に、視点をもって活動することで自信をもつ児童が増えた。イ

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について

- 教師による提示で友達の考えに注目する。【重点：協働】
- ロイロノートを用いて、多くの友達の考えに触れる。【重点：協働】
- ロイロノートを用いて、自分なりの方法で活動に参加ができるようになる。【重点：個別】
- 自分の考えをシンキングツールを用いて考えをまとめる場を設定する。【重点：個別】
- 3・4・5・6年 ロイロノートの提出機能を用いて、互いの考えを共有する。【重点：協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 音読発表会をしよう！本を作ろう！など、単元のまとめをイメージしてから学習に取り組む。
- 授業の流れを構造化して示したり、感想を発表したりする。
- ノートやロイロノートの提出機能を使って、学んだことや考えたことを共有する時間を取り入れる。
- プリントや板書、ロイロノートなどを活用して、授業の流れを視覚化する。
- 言葉を通じて積極的に人と関わる場面を設定し、思いや考えを広げられるようにする。

